

認知症ケアのプラットフォーム

Platform for dementia care

認知症ケアは、認知症リハビリテーションを実施するうえでも必要不可欠なツールの一つとなっています。さる2019年6月に「認知症施策推進大綱」が取りまとめられ、医療・介護・福祉の分野において認知症リハビリテーションとともに認知症ケアのより一層の充実が求められています。そこで、本特集では、「認知症ケアのプラットフォーム」として、パーソン・センタード・ケア、バリデーション、STrategies for RelaTives (START) プログラム、認知症カフェ、さらには Dementia Friendly Community を取り上げ、それぞれ第一線でご活躍されている先生方に解説していただきました。

パーソン・センタード・ケア 内田達二氏ら 925

認知症のある人が人として存在するためには、愛、アイデンティティ、愛着・結びつき、たずさわること、ともにあることからなる心理的ニーズが最低限満たされる必要があります。認知症のパーソン・センタード・ケアでは、認知症のある人の価値を認め、これらの心理的ニーズを満たすことによってパーソンフッドを維持・向上させることが重視されていることが、パーソン・センタード・ケアの概念とともに述べられている。さらに、パーソン・センタード・ケアを実践するうえで役立つ、ケア専門職の社会心理や深層心理、Valuing People, Individualised Care, Personal Perspective, Social Environment (VIPS) フレームワークなどについて概説している。

バリデーションとユマニチュード 村山明彦氏ら 933

認知症高齢者との代表的なコミュニケーション法であるバリデーションとユマニチュードはいずれも認知症高齢者を共感的に理解することを前提としている。本稿では、それぞれの基本的な理論と技法に続いて、両者の方法論を援用した実践例を説明している。また、ケアを受ける対象者と介護者との相互関係と安全管理について介護者が主観的に判断するプロセスによって提供されるケアが異なることになるが、その判断にバリデーションとユマニチュードの視点が活きることを、そして認知症ケアの現場においてこれらの技法を参考にする意義について述べている。

認知症家族介護者に対する認知行動療法—START プログラム 藤澤大介氏 939

START プログラムは、家族介護者に対する認知行動療法プログラムとしてロンドン大学で開発され、最新かつ大規模な効果検証試験によって家族介護者の抑うつ症状や生活の質 (quality of life ; QOL) を改善し、医療経済的効果があることが報告されている。本稿では、START プログラムを構成する、認知症や介護ストレスなどに関する心理教育、応用行動分析に基づいて認知症者の行動を理解する行動マネジメント、家族介護者のストレス・マネジメントについて概説している。最後に、著者らがわが国で実

施できるように修正した START プログラムの効果検証研究を紹介している。

認知症カフェの役割 武地 一氏 945

わが国において認知症カフェは 2012 年以降急速に増加し、全国に広がりをみせている。本稿では、わが国における認知症カフェ誕生の歴史的経緯を述べている。認知症カフェの運営にかかわる介護福祉専門職や自治体職員に対して著者らが行ったアンケート調査により分析した認知症カフェの成立要因や、全国の認知症カフェに対するアンケート調査結果から著者らが抽出した認知症カフェに来る効果について概説している。また、認知症カフェのスタッフに必要と見込まれるスキルについて著者らがまとめた自己評価票とその効用について紹介している。

Dementia Friendly Community 栗田主一氏 951

Dementia Friendly Community の概念とともにその実現を目指して認知症者が当事者として参画して行われてきた活動として、スコットランド・アルツハイマー協会が出版した「Creating dementia-friendly communities : a guide」の概要、日本認知症本人ワーキンググループの活動、そして英国で展開されている認知症当事者の声のネットワーク Deep の活動について紹介している。そして、わが国の認知症国家プランと見なすことができる「認知症施策推進大綱」の行動計画/進捗指標策定や成果評価に認知症者が当事者として参画することを提案している。